



# 授業と地域貢献活動をともに行う 学びで、問題解決能力を身につける

## 桜美林大学 サービスラーニングの推進



### カンボジアの孤児院で 運動会を企画しました

事前ヒアリングで、カンボジアの学校には体育の授業がないことが分かり、運動会を実施して体育教育を広げたいと考えました。活動を通して、将来の職業の目標も見えてきました。(三上さん)

### 本当の復興支援には何が 求められるか考えました

定期的に福島県田村市都路町を訪問し、被災地の復興支援を行うプロジェクトに参加しました。授業外でも集まりミーティングを重ね、活動内容を自分たちで決めていきました。(和田さん)



### ゼミ内外での活動発表で、 自分たちのプロジェクトを俯瞰できます

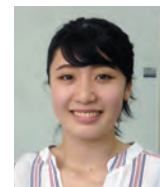
プロジェクトの活動内容は、週1回のゼミで発表し合います。さらに今年は、学内で行われた「リベラルアーツ・プレゼン・コンテスト」に参加し、英語で活動内容を発表しました。活動を振り返るよい機会になりました。(三上さん)



### 学生主体の地域貢献活動を 行う科目を設置

桜美林大学では、教育目標に「**学**而**事**人」(学んだことを人々や社会のために役立てる)を掲げており、教室での学び(ラーニング)と地域社会への貢献活動(サービス)をセットで行い、授業で得た知識を学外での体験に生かして問題解決を目指すサービスラーニングを推進している。そうした学びができるサービスラーニング科目は、2017年度に全学で68科目が設置されており、703人が履修した。

リベラルアーツ学群メディア(ジャーナリズム)専攻4年の三上彩乃さんは、3年次から専攻演習で



リベラルアーツ学群  
メディア(ジャーナリズム)  
専攻4年

#### 三上彩乃

みかみ・あやの  
青森県・私立弘前学院聖  
愛中学高校卒業。



リベラルアーツ学群  
国際協力専攻4年

#### 和田昌之

わだ・まさゆき  
東京都立富士森高校卒業。  
学内の学生団体でも地域  
貢献活動にかかわる。

サービスマーケティングを行う牧田ゼミ

に所属して国際協力について学んできた。授業では、国際協力に関する英語文献を分担して和訳し、概要をまとめて発表。その後、討論も行い、概念や理論を理解する。

「国際協力に関心のある学生が集まっていますが、意見を聞くと、自分とは異なる価値観や考え方があることに気づきました」（三上さん）

同ゼミでは、週1回の授業に加え、国際協力、復興支援など4つのプロジェクトの中から1つを選び、地域活動を行う。三上さんは、夏季休暇中にカンボジアの孤児院で10日間の活動を行うプロジェクトに参加。毎週の授業後もメンバーと集まって活動内容を練り、事前にカンボジアの歴史や文化、現地の言語を学んだ。

「活動目標として、最終日の運動会実施を掲げ、競技の練習を始めましたが、チームでの競技がうまくいきませんでした。それは、協調性が育まれていないだけでなく、内戦で民族同士が対立していた過去の影響もあることを学びました。そこで、仲間と話し合い、競技を教えるだけでなく、仲間とスポーツを行う楽しさを感じてもらうことを重視した活

動に修正しました」（三上さん）

## 地域社会の課題に取り組み問題解決能力を身につける

同じく牧田ゼミに参加したりベラルーアーツ学群国際協力専攻4年の和田昌之さんは、福島県田村市都路町で、月1回ほど訪問する震災復興支援のプロジェクトにかかわった。

「活動目標を決める際、子ども向け支援と高齢者向け支援、どちらを行うかで意見が分かれ、チームで動く難しさを実感しました。反対意見にも耳を傾け、両方の支援活動を実施しました」（和田さん）

和田さんが特に難しいと感じたのはニーズの把握だという。

「ゼミでは、理論や事例を学び、張り切って現地に行きました。けれども、住民の方にいきなり『支援をしたい』と言うのではなく、世間話などをして、信頼関係を築くことが地域活動では重要だと学びました」

「教室での学び」と「地域社会への貢献活動」をともに行うことで、授業で学んだ知識を深め、地域社会の問題を発見し、解決する能力やコミュニケーション力、リーダーシップを身につけていくことができる。

## 地域社会での体験を学びや進路に生かす

学生はこうした過程を通じて、自らの学びを深め、将来のキャリアを模索していく。

「農家の方から『今も風評被害で苦しい』と聞きましたが、自分には何ができるのか、手立てが浮かびませんでした。ただ、自分のできることを一歩でも進めようと、私たちは、通常は3年生だけで行うゼミのプロジェクト活動を4年次も継続し、都路町で町おこしイベントをすることにしています」（和田さん）

三上さんはカンボジアでの活動後、支援を継続できないジレンマに悩んだという。

「別れ際に子どもたちが泣いているのを見て、自分たちは子どもたちに一時的に悲しい思いをさせているだけではないのかと思い、継続的な支援について考えさせられました。活動はしっかりと後輩に継承し、私的目標として明確になった保育士を目指して勉強します。まずは日本で経験を積み、将来的には発展途上で保育士として、子どもたちの支援にかかわりたいです」

## 大学の思い

### 地域社会への貢献活動が学生の汎用的能力を伸ばす



基盤教育インスティテュート  
サービスマーケティング  
センター長  
牧田東一  
まさた・とういち

本学では2011年度に「サービスマーケティングセンター」を設置し、13年度から全学にサービスマーケティング科目を開設しました。アメリカの大学では全学生に履修させる場合も多いですが、日本では本学のように全学的に実施する大学は少ないと言えます。

私たちが期待しているのは、サービスマーケティングの過程を通して、自ら問題を発見し、それを解決することができる能力を身につけることです。将来の予想が困難な社会において、教科書で学んだ知識だけではなく、自ら考え、行動していく力が重要です。教室の学びを地域社会への貢献に生かしていくプロセスの中で、コミュニケーション力や協調性などの汎用的能力も獲得していきます。

そうした能力を発揮する場として、私のゼミ生は学内の「リベラルアーツ・プレゼン・コンテスト」に参加しました。活動をゼミ以外の人たちに向け、英語でプレゼンテーションする機会を得て、大きく成長しました。どのような進路に進んだとしても生かせるスキルを、学生たちは獲得したと思います。